



へいま益美

日本共産党久喜市議団 NO16

元気じるし

平間すみ活動ニュース発行 2020年7月15日 久喜市本町8-4-1 ☎ 23-9519

6月8日から7月2日まで
6月議会が開催されました。一般質問等の報告を行います。



生活のご相談はお気軽に
へいま益美まで ☎23-9519
🔍 検索 日本共産党
久喜市議団ブログ更新中です

国からコロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金約13億3千7百万円

久喜市は補正予算総額約14億7千万円

補正予算による主な事業

- ★すこやか子育て商品券給付事業
令和2年4月28日から令和2年12月31日
までに生まれた子供に対し一律5万円の商品券を給付 **約3千3百20万円**
 - ★ひとり親世帯臨時特別給付金事業
ひとり親世帯支援で1世帯5万円の給付金
(国の制度) **約1億2千3百40万円**
 - ★中小企業・小規模事業者家賃支援給付金
売り上げが減少している企業に月3万3千円を6か月間 **約2億5千2百40万円**
 - ★会計年度任用職員給与費
小・中学校の再開に伴いきめ細かな指導のため教育活動指導員などの配置 **約7千3百62万円**
 - ★児童生徒等健康診断・健康管理事業
感染症対策のため各学校にサーモグラフィや衛生用品を購入 **約8千8百万円**
 - ★学校給食運営事業 学校給食費徴収金
6月から8月迄3か月間の給食費を無償 **約1億4千万円** (財源内訳変更)
(大阪府は今年度から完全無償化。来年3月まで無償化の自治体も増加)
- *その他は広報・議会だよりをご覧ください。

一般質問 小・中学校大規模構造基本計画を問う

本年3月19日教育委員会が「全ての子どもたちにチャンスのある教育環境」を具現化するとして、全ての小中学校のトイレ洋式化・雨漏り改修を中心とした「大規模改造計画」の方向性を示しました。この問題はこれまでも多くの保護者が、学校が、議員が、早急の改善を要望してきました。

計画目標で掲げられている工事実施年度は

【答】今年度は大東中学校・江面第一小学校の大規模改造、三箇小学校のトイレ改修を行い、令和3年度から他の学校を予定しているが、9月補正で要求できれば次の学校を行いたい。

工事を行う学校の順位は

【問】これまでの調査結果を踏まえて、各地区ごとに、小学校・中学校に優先順位を付けたが、工事内容、規模等の決定と設計、2年目以降の工事の実施は各地区同時並行で行うのか。それとも例えば、久喜地区を優先し、次は菖蒲地区というようなことになるのか。

また、小学校・中学校ではどちらが優先されるのか。

【答】毎年2校程度実施していきたい。どこの学校からかはこれから決定していくが、トイレ洋式化率の低い順、施設の劣化状況で順番を付けている。また、どこかの地区に集中してしまう可能性もあるが、基本的には基本計画に示した優先順位の通りに行っていくたい。

*いろいろな理由を付け焦点をぼかしている。質問に沿った答弁をすべき。



【問】新型コロナウイルスの感染に伴い、全国の小中学校が休校するという異常な事態になる中、久喜市では全国に先駆けて、オンライン学習を取り入れ対応してきました。このような全国的なオンライン教育の事例を受け、文科省はGIGAスクールの導入を前倒しで行うことを決定し全国の教育委員会に通知しました。久喜市でも2月議会においてGIGAスクール構想の実現に向け、校内通信ネットワーク整備事業として7億9千8百60万円の補正予算を決定しました。今後の計画について伺う。

また、現代の教育現場において、教員の仕事量は限界であるともいわれている。全ての指導者が同じような指導力を持つ必要があるが、過大なる負担が予想される現場の教員の研修、フォローはどのように考えているのか。

更に、児童生徒のフォローはどう行うのか。

【答】令和2年度中に児童生徒一人一台の端末を整備したい。GIGAスクール構想は児童生徒の学びの質を向上させると同時に、授業整備や成績処理等の負担軽減に資するもので働き方改革にもつながる。臨時休業中の研修を通じ、教員の活用能力や技術も飛躍的に向上した。

児童生徒については、情報手段の基本的な習得も含めた情報活用能力、ICTスキルの向上に向けた取り組みを、教育計画に位置付けて指導していく。



【問】新型コロナウイルスの感染拡大により、視覚障がい者の方が苦境に立たされているという報道がなされている。令和2年4月22日には、社会福祉法人日本視覚障害者団体連合」が厚生労働大臣・文科科学大臣に、新型コロナウイルスに関する「要望書」を提出している。

内容は①マスク・消毒用アルコールなど衛生用品の優先的入手・購入



②あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう等のあはき業についての所得補償の救済措置

③同行援護についてなど6項目である。これらの問題で久喜市においてsosが発信された事例はあるか。あれば、どのような対応を講じたのか伺う。

【答】久喜市における視覚障がい者の人数は260人で、買い物や通院にヘルパーの支援が必要な同行援護受給者は29人。

各種支援の問い合わせ、支援を求める事例はなかったが、同行援護や支援は極めて重要であり、生活に不可欠なものと認識している。今後も個人の障害特性に合わせたきめ細かい対応を心がけていきたい。

再開後のクラス編成は

【問】

6月15日より通常授業を行うことが決定したが、今まで通りの授業体制は難しいと指摘されている。1学級の人数を30人または28人以下にするなどの自治体もある。

その場合、教員の数は圧倒的に不足することになる。また、教室の確保も必要になってくる。「3つの密」解決に向けての考えを伺う。また、今回のコロナ感染によって、保護者の経済的基盤は大きく減少している。第1子第2子の給食費を半額にする等、補助を拡大し保護者の支援を行う必要がある。



一般質問 小・中学校の学校再開について

【答】文科省からマニュアルが示されている。1クラスの人数が多い学級は図工室や音楽室などの特別教室を利用している学校もある。少人数指導の加配を活用し、1クラスでの児童生徒数を減らす指導を進める。

給食費の半額は2億5千万円が必要で考えていない。しかし、令和2年度の学校給食費については、全ての保護者の経済的支援として一部無償化を検討している。

(その後6・7・8月の無償化が決定)

編集後記

なぜ今憲法改正議論？

6月議会では「国会における憲法改正議論の推進を求める意見書」が平沢議員（会派新政久喜）から出されました。コロナ過の中で多くの国民が、暮らしと命を守ることに大きな不安を抱えている今、憲法を変えるという議論が必要でしょうか。国会に求めるのは国民に安心と希望を与える政策の実施ではないでしょうか。勿論否決されました。